

## 職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
ヒロ・デザイン専門学校		昭和51年7月24日	下田眞一郎		〒860-0012 熊本市中央区紺屋今町3-14 (電話) 096-352-9059		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人出田文化学園		平成1年1月11日	徳永隆裕		〒860-0012 熊本市中央区紺屋今町3-14 (電話) 096-352-9059		
目的	教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育及び専修学校教育を行い、実践的な知識・技術等を得し社会に貢献できる創造的で人間性豊かな人材の育成することを目的とする。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
服飾・家政	服飾専門課程		ブライダル科		平成23年12月22日 文部科学省告示第166号		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	2015	743	695	419	#REF!	158
単位時間							
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		13人		5人	9人	14人	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 授業科目毎の試験及び提出物評価60%		
長期休み	■学年始:4月1日～4月8日 ■夏季:7月25日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月24日～3月31日			卒業・進級条件	・各学年の授業日数の4/5以上の出席及び、各教科の4/5以上の出席 ・各年科目評価で不可が2科目以内		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 保護者を含めた3者面談			課外活動	■課外活動の種類 ショップ開設、地域清掃活動 ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 ブライダル業界 ■就職率 <sup>※1</sup> : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 <sup>※2</sup> : 100% ■その他 関連分野就職率 100% (平成28年度卒業者に関する平成29年3月31日時点の情報)			主な資格・検定等	日本メイクアップ検定3級 フォーマル検定準2級 アシスタントブライダルプランナー検定2級 ファッション色彩能力検定3級		
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 15.4% 平成28年4月1日 在学者 13名 (平成28年4月1日 入学者を含む) 平成29年3月31日 在学者 11名 (平成29年3月31日 卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更および一身上の都合 ■中退防止のための取組 日常指導: 観察とコミュニケーション 面談: 年3回以上(課題の早めの把握、問題の共有、課題解決の支援)、3者面談の実施。 組織的対応: 学生の変化を感じた時点での情報の共有。早めの問題解決。						
ホームページ	URL: <a href="http://hiro-design.ac.jp">http://hiro-design.ac.jp</a>						

授業科目等の概要

(服飾専門課程ブライダル科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			造形論	縫い代始末の方法やファスナー、ホック等基本的な縫製の技術を学び、ワンピース等の製作を通し、服の構造を理解する。	1通	95	2.5			○	○		○		
○			服飾デザイン論	業界のあらゆる分野に必要な色彩とデザインの基本的な知識を講義・演習を通して学ぶ。基礎デザインの原則の理論と技法を理解しあらゆるデザインワークに活かす。	1通	133	3.5	△	○		○				○
○			デッサン	装花やヘアメイクのイメージ、会場イメージ図等、オリジナルの企画・提案が出来る様、デッサンの技術を習得する。	1通	19	0.5	△	○		○				○
○			ブライダル総論	ブライダルに関する知識全般を学ぶ。日本の婚礼の基礎知識、アメリカンウェディングの基礎知識を学び、習得し、基本的な結婚式の企画・提案ができるようになる。	1通	285	7.5	○			○				○
○			ブライダルマーケティング論	マーケティングに必要な基礎知識、分析方法を学び、市場調査や雑誌分析、トレンド分析を実践的に演習し習得する。	1通	57	1.5	○	△		○			○	
○			ブライダルコーディネート論	結婚式において式場、会場に合わせた衣装、ヘアメイク、装花。また式場、会場の音響・照明・テーブル等をトータルコーディネートできるようにする。	1通	190	5		○	△	○				○
○			ブライダル演習Ⅰ	ホテル、専門式場での研修を通し、ブライダル業界の仕組み、業務内容、社会人としての知識を深め、技術を習得する。授業で得た知識だけでなく、見えていない部分を含めた総合的な理解力を養い、仕事に対する責任感と充実感、就業意識や実務能力の向上を得る。企業等の最新情報や人材に対するニーズを把握し、理解する。	1通	95	2.5				○		○		○
○			接客	業界で仕事をする上で必要な、立ち居振る舞い、会話術電話応対等の接客マナーを学び、さらに現場でのお客様の応対として新規接客から成約までの一連の流れをロールプレイングを中心にコミュニケーションの技術を習得する。また、サービスの観念についてあらゆる角度から研究し、お客様が真に期待されるサービスを追求・理解する。	1通	38	1	△	○		○				○
○			一般教養	仕事をしていく上での最低限のコミュニケーション（口頭表現、文章表現）ができる力を身に付け、就職試験で課される一般教養試験に対応できるようにする。また、美術や工芸、文学等幅広い教養を身に付ける。	1通	76	2	○	△		○			○	
○			特別講義	幅広い分野で活躍する人や卒業生講話を実施したり、美術館での鑑賞を行ったりと幅広い専門的な知識や一般教養を身に付ける。	1通	19	0.5	○	△		○			△	○
○			造形論	縫い代始末の方法やファスナー、ホック等基本的な縫製の技術を学び、ワンピース等の製作を通し、服の構造を理解する。	2通	63	1.75				○	○		○	

○		ブライダル総論	ブライダルに関する知識全般を学ぶ。日本の婚礼の基礎知識、アメリカンウェディングの基礎知識を学び、習得し、基本的な結婚式の企画・提案ができるようになる。	2通	270	7.5	○			○										
○		ブライダルマーケティング論	マーケティングに必要な基礎知識、分析方法を学び、市場調査や雑誌分析、トレンド分析を実践的に演習し習得する。	2通	18	0.5	○	△		○					○					
○		ブライダルコーディネート論	結婚式において式場、会場に合わせた衣装、ヘアメイク、装花。また式場、会場の音響・照明・テーブル等をトータルコーディネートできるようにする。	2通	180	5		○	△	○									○	
○		企画	型にとらわれないオリジナルの発想での企画・提案力を養う。プレゼンテーション能力を身に付ける。	2通	207	5.75	△	○		○									○	
○		ブライダル演習Ⅱ	ホテル、専門式場での研修を通し、ブライダル業界の仕組み、業務内容、社会人としての知識を深め、技術を習得する。授業で得た知識だけでなく、見えていない部分を含めた総合的な理解力を養い、仕事に対する責任感と充実感、就業意識や実務能力の向上を得る。企業等の最新情報や人材に対するニーズを把握し、理解する。	2通	144	4				○				○					○	○
		接遇	業界で仕事をする上で必要な、立ち居振る舞い、会話術電話応対等の接遇マナーを学び、さらに現場でのお客様の応対として新規接客から成約までの一連の流れをロールプレイングを中心にコミュニケーションの技術を習得する。また、サービスの観念についてあらゆる角度から研究し、お客様が真に期待されるサービスを追求・理解する。	2通	54	1.5	△	○			○									○
○		英会話	グローバル化が進む業界に対応すべく、現場ですぐに使える実践的な英会話を音読、ロールプレイングを中心に、話す技術を身に付ける。	2通	36	1	△	○			○									○
○		一般教養	仕事をしていく上での最低限のコミュニケーション（口頭表現、文章表現）ができる力を身に付け、就職試験で課される一般教養試験に対応できるようにする。	2通	18	0.5	○	△			○									○
○		特別講義	幅広い分野で活躍する人や卒業生講話を実施したり、美術館での鑑賞を行ったりと幅広い専門的な知識や一般教養を身に付ける。	2通	18	0.5	○	△			○								△	○
合計				20科目	2015単位時間( 単位)															

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
各学年において、授業日数の4/5以上の出席及び「不可」が2科目以内	1 学年の学期区分	2 期	
	1 学期の授業期間	1 9 週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。